

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

お待たせいたしました

どなたも待っておられないかもしれませんが、3か月ぶりの通信です。

今日は何の日？4月20日

郵政記念日…1871年に飛脚制度から郵便制度に切り替え。

ああ、勘違い①

【うちは、歯医者じゃないよ】

東京に引っ越したばかりの頃。どこに何があるか見当もつかず、途方に暮れていた。そんな時でも歯痛は待ってくれない。

「なんか、歯が痛い。虫歯かなあ？」

ご近所のよくしゃべるおば様に恐る恐る聞いてみると、「B 歯科がいいんじゃない？」と有難いご宣託。『職業別電話帳』で調べて、早速連絡してみる。

「すみません。歯が痛いんですわあ。虫歯やないかと思うんですけど、そちらは何時まで診療してはりますか？」

「何時なら来れる？仕事帰り？いいよ、来るまで待ってあげるから。うちはねえ、亀有駅で降りてねえ、左へ…」

なんと親切で丁寧な事でしょう。

仕事が終わって亀有駅で降り、教えられた通りに道を行くと、「あった、あった、ありました！ B 歯科って書いたある。電気も点いてる！」

滑り込みセーフ。受付に保険証を出します。患者はどうやら私一人らしい。「良かった～。早く終われる」。しばらく待つと、「米山さ～ん、どうぞ」の声。勇んで診察室に入り、イスに座ります。

「今日は、どうしました？」

「どうしました？って、昼間にお電話し

ましたやん」

「電話？ いや、どうだったかなあ？あなた、電話受けた？（看護師さんに）」

「いやいや、先生とお話しましたやん」

「そうだった？ 何と？」

「そやから、歯が痛いって。虫歯やって。そしたら先生が、待っててくれるって言わはるから、急いで……」

「ちょっと。ちょっと待って。歯が痛いの？虫歯？」

「そうですよ！」

「うちでは治せないよ」

「はあ～！ なんやて！」

「うちは、内科だからねえ。虫歯は治せないんですよ。ごめんなさい」

「えっっ！」絶句したヨネやん。

「でも、外にB 歯科って……」「うちはB 内科。B 歯科さんは2階ですよ」

呆然として外に出て建物を眺めてみると、ありました・ありました。煌々と輝く「B 歯科」の看板の下に、もう一つ「B 内科」の看板が。

慌てて2階に駆け上がり、受付に滑り込むと、先生がたった一人でヨネやんを待っていてくれました。

「どうしたの？随分遅かったじゃない」

「すみません。間違えて1階で待ってたものですから」

「1階？ 1階は内科だよ～。虫歯は治せないよ～」

「はあ～（わかってますねん、それは。でもややこしいんですわ。同じ名前やから……）」

生き馬の目を抜く大都会で、内科の医者「虫歯を治せ」と迫った哀れな男。その名前は、ヨネやん。努々（ゆめゆめ）忘る事勿（なか）れ。